

## <白金標準、出直り相場に付きもの再度の下値模索の値動き・・・>



(出所：オアシス)

日銀のサプライズな政策金利引き上げを行い、パウエル FRB 議長が 9 月の利下げ示唆を行ったが、ISM 非製造業景気指数や雇用統計の弱い経済指標を受け、FRB の景気に対して後手に回る動きの懸念を高め、円キャリーの巻き戻しにおける急激な円高を受けた日経平均が 4700 円安を付けるなどパニック売りが拡大すると、景気商品である白金標準先物も金標準の大幅な下落に合わせて一時昨年 12 月 8 日以来の 4129 円まで下落している。

しかし内田日銀副総裁の利上げ否定の発言や ISM 非製造業景気指数が好不景気の分岐点である 50 を超える上昇を受け、リスク緩和に伴う巻き戻しを受けると 4475 円まで安値から 346 円の上昇を行っている。しかし週末にはボラティリティが高い事を理由に大阪取引所が白金標準先物の証拠金を 96500 円から 208000 円へ引き上げるなど、玉整理を促す処置を行っており、玉整理に伴う調整安の動きが予想され、再度 4300 円を割り込む値動きに注意が必要と思える。しかし需給要因から見て昨年 12 月の水準は底張りの値動きを見せていた事から、一時的な調整安になると思われロングポジションのエントリーチャンスと思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** は下げ止まり、**シグナル** は切り下げている。RCI でも **短期** は切り上げだし、**長期** は底張りを示すなど **200 日移動平均線** が位置する 4589 円に向けた戻り基調が続くと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,380,000円(2024年8月13日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復68,640円(2024年8月13日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>